

栗原川のせせらぎと 蛍火に魅せられて



ゲンジホタルが飛び交う農場内の栗原川

先達の営みを受け継ぐ考究の場

伊勢原農場は、総合農学を推進する本学の教育・研究の場として集約された農場である。この地は、東名高速道路開発に伴う調査から配石遺構群が発掘され、おびただしい数の石が出土した縄文中期から後期にかけての三ノ宮・下谷戸遺跡群としても考古学者に知られていて。大学時代に埋蔵文化財の調査補助をしていた私は、考古学者とともにこの地を初めて訪れた。栗原川流域の水系を先達は賢く利用していたのであろう。すなわち縄文・弥生時代、古墳時代前期の竪穴住居址、古墳時代後期の古墳の周溝からもこの地の生活は豊かであったはずだ。時空を超えて農場で学ぶ学生には作物生産とヒトの生活を考究してもらいたい。

農場内に歩を進めると季節ごとの香りが心地良く鼻腔粘膜に語り掛ける。葉菜類水耕栽培温室では、チンゲンサイ・ミズナ、雨よけ土耕栽培ハウスでは、ナス・キュウリ・トマト・トウモロコシ・ホウレンソウ・コマツナ・ダイコン・カブ、露地圃場では、ジャガイモ・ネギ・タマネギ・ニンジン・サトイモ・ソラマメ・スイカ・ブロッコリー・キャベツなどが実る。果樹栽培ハウスや圃場では、ブドウ、ミカン、リンゴ、モモ、ナシ、カキ、キウイ、イチジクなどが品種、栽培方式や仕立てを変えて生産されている。完熟した園芸作物の香りは、料理を想像

させるとともに食の豊かさやヒトの心に齎(もたら)せてくれるのだ。さらにシクラメンなどの花卉類を栽培する学生の眼差しも農大の誇りではないだろうか。総合農学の研究を志す学生や実習生が高度な技術と応用力を習得する施設としてさらに整備したいものだ。梅雨入り前の農場にせせらぐ栗原川には、日本ビオトープ協会の協力を得て水辺の維持管理を継続的に実施し、ゲンジホタルが生息している。栗原川のせせらぎとともに里山の象徴である蛍の灯が私たちの心の癒しとなっている。そんな環境で学べる伊勢原農場での活動を大切に農大らしい学びはさらにこの農場で繰り広げられるのだ。

【文・江口文陽(学長) 写真・阿部雄介】



学生が管理するシクラメン

The NEWS 東京農大

2023年(令和5年)7月号 第098号



東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 1891

「総合農学」を推進する

- 世田谷キャンパス 大学本部
- 大学院・応用生物科学部
- 生命科学部・地域環境科学部
- 国際食料情報学部
- 厚木キャンパス
- 大学院・農学部
- 北海道オホーツクキャンパス
- 大学院・生物産業学部

4月・7月・12月発行
編集 東京農業大学企画広報室
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘 1-1-1
<https://www.nodai.ac.jp/>



HEADLINE

- 国際センターオープン／海の豊かさを守るシンポジウム開催
- 大学院生の活躍(クロツチクジラの撮影成功)／イベント情報
- 小林幸子田の田植え参加／農業実習
- 農友会の活動(オホーツク硬式野球部・ホッケー部・剣道部・カーリング部)
- 陸上競技部・男子長距離14年ぶり伊勢路全日本大学駅伝出場



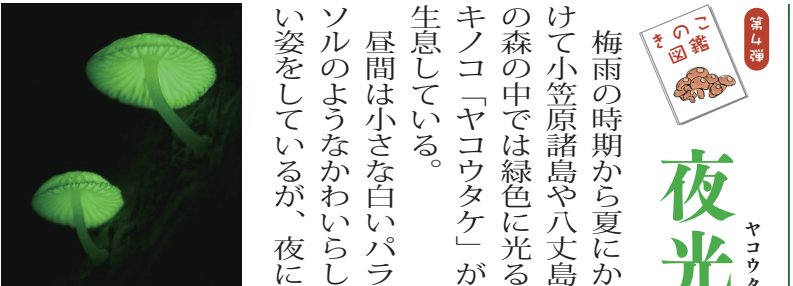
本厚木駅の「東京農業大学最寄駅」副駅名に



本厚木駅に掲げられた駅名標

2023年7月1日、小田急小田原線本厚木駅の副駅名看板として、経堂駅(2021年4月1日掲出)に引き続き「東京農業大学厚木キャンパス最寄駅」が掲出されました。本厚木駅は小田急沿線の中でも乗降人員10万人を超える主要駅で、農学部に通う学生の多くが利用しています。

新宿から経堂、本厚木を経て神奈川県小田原までを結ぶ小田急小田原線沿線は、優れた農林水産物の宝庫でもあります。本厚木駅副駅名看板の掲出を機に7月3日に



夜光茸

ホタルのように発光する幻想的なキノコ

梅雨の時期から夏にかけて小笠原諸島や八丈島の森の中では緑色に光るキノコ「ヤコウタケ」が生息している。昼間は小さな白いパラソルのようなかわいらしい姿をしているが、夜に

梅雨の時期から夏にかけて小笠原諸島や八丈島の森の中では緑色に光るキノコ「ヤコウタケ」が生息している。昼間は小さな白いパラソルのようなかわいらしい姿をしているが、夜に

これからの蒸し暑い夏の夜に自宅でホタル観賞ならぬキノコ観賞で涼んではいかがでしょうか。

【文・寺田守一、写真・江口文陽(学長)】

東京農大SDGsコンテスト募集



昨年度に続き、今年で2回目となる「東京農大SDGsコンテスト」を開催する。全国の高校生を対象に、SDGs17の目標と本学が設定する学びのキーワードを選択し、地域社会をより良くするために自らが考えたこと、実際に取り組んでいること、学校で取り組んでいることについて、小論文を募集する。最終審査ではプレゼンテーションを実施し、優秀な作品について表彰を行う。

作品募集中 応募期間 2023年7.1(土)～9.8(金)(必着)



詳細はこちらから▶▶▶ <https://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/9997>

世田谷キャンパスに「国際センター」オープン

総合農学のワールドワイドな拠点に

4月、「国際センター」が完成した。「東京農大の叡智を世界に発信する『NODAI FLAGSHIP』となる」をコンセプトに、東京農大の建学の精神「人物を畑に還す」を「人物を世界の畑に還す」に拡げて、国内外のグローバルリーダー育成の拠点を目指す。1階には建学の祖・榎本武揚公由来の書、品を展示した「榎本ギャラリー」を配し、新たに「農大マルシェ」「サザコーヒー」東京農大



賑わいを見せるサザコーヒー東京農大店

新鮮な野菜や商品が並ぶ農大マルシェ

「国際センター」1階の「農大マルシェ」は、学生ベンチャー「東京農大発株式会社メルカード」が運営。学生たちが農場で育てた新鮮な野菜や、「東京農大発株式会社メルカード」の商品、東京農大ゆかりの農産物やパンやスイーツなどの加工食品を取り揃える。「サザ

際センター開設記念シンポジウム」を開催する他、8月5日には第22回「食と農と環境を考える世界学生サミット」を開催し、世界21カ国・地域21大学の代表者30名が、東京農大生とともに持続的な地球社会の実現に向けたアクションを熱く議論する予定。



榎本ギャラリーから見る吹抜け階段



満席の会場



登壇された各大学の先生・大学院生とMSCジャパンアンバサダーのココリコ・田中直樹氏

あべのハルカスでは同時に、進学相談会も実施される等、海洋研究に興味を持つ中高生や保護者、高校教員で賑わい、有意義な1日となった。

【榎本 弾】

近畿大学 × 東京海洋大学 × 東京農業大学 「海の豊かさを守ろうシンポジウム—海洋研究からSDGsを考える—」を開催

5月20日、大阪市あべのハルカスに、中・高生を中心とした約150名が来場。海洋研究を行う3大学のシンポジウムをハイブリッドで実施した。

東京農大が主催、「実学」を教育理念とする近畿大学、東京海洋大学と協力し、海洋研究の魅力伝えるシンポジウムを開催した。

「海の豊かさ」を守っていくための学びの重要性や、研究の必要性・取り組みについて、最新の海洋研究を中心に講演が行われた。

研究成果に沸く

本学の小林万里教授(海洋水産学科)が司会進行し、江口文陽学長(海洋生物資源学部門)の挨拶から始まり、3大

東京農大からは市川卓准教授(海洋水産学科)が、「サケを守り、地域を守る」について活動内容やその意義を伝えた。

3大学の大学院生たちは、日頃の実学による海洋調査・研究の面白さについて発表し、特別対談としてMSC(海洋管理協議会)ジャパンアンバサダーを務めるココリコ・田中直樹さんと本学の市川至純教授(海洋水産学科)が、海の生物や海洋保護についてユーモアを交えながら楽しい対談を行った。

特別対談中のココリコ田中直樹さんと市川至純教授

登壇された市川卓准教授

主催者挨拶する江口文陽学長

登壇された市川卓准教授

特別対談中のココリコ田中直樹さんと市川至純教授

大学院生の活躍

謎多き「クロツチクジラ」の生体の全貌をドローンでキャッチ!!



「クロツチクジラ」は、2019年に新種として登録されましたが、未だその生態についてはほとんど分かっていません。なぜなら、クロツチクジラは船での接近が難しく、浮上する時間もわずかに2分程度と非常に短いからです。

私たちのチームは、2019年からチカスカジラの調査のために頻繁にオホーツク海にでる機会がありました。調査の合間に、クロツチクジラが浮上したのです。

2023年5月8日にその瞬間が訪れました。比較的近くにクロツチクジラが浮上したのです。

世界中初めてクロツチクジラの全貌を撮影することに成功したのです!

撮影された映像には、クロツチクジラの外見の特徴(体長、黒っぽい体色、明瞭なダルマザメの噛み傷、比較的短い吻部)がはっきりと捉えられました。

【小林万里】

全貌撮影、世界初

「小林幸子田」での田植えに参加 — 農業支援の輪広がる —

5月25日新潟県長岡市山古志地域の「小林幸子田」で行われた田植えに、農業支援活動の一環として東京農大の学生も参加し、歌手、小林幸子さんとともに田植えを行った。新潟県出身の小林幸子

さんは、2004年の新潟県中越地震で被災した長岡市山古志地域の復興を願い、2006年から地元の小学生とともに田

て楽しかった。(山古志地域は)いつもいる場所と全く異なり、パンフレット等に載っている写真そのまま

初コラボレーション



田植えでアグリデニムを着用

植えを行っており、今回で15回目になる。今回参加した東京農大の学生は「小さいカエルやオタマジャクシ等、自然の生き物もい

まの様にきれいな場所」と話し、山古志地域で行う稲作の魅力に触れながら、農業に対する学びを深めた。これまで収穫したお米は、復興米



田植え後に歌手・小林幸子さんを囲んで

農大ラジオ はじめました

東京農大 × あぐりずむ

Tokyofm、全国JFN38局ネットで放送中 radiko/Audeeでも配信中



熱心に苗植えしている農学科1年生

農学部で行われている農業実習は、動物・家畜・植物・作物だけでなく、それらを取り巻く環境を含めて実物を観察する。農学部は、動物科学科、生物資源開発学科、デザイン農学科の4学科の1年生が毎週金曜日

農学部で行われている農業実習は、動物・家畜・植物・作物だけでなく、それらを取り巻く環境を含めて実物を観察する。農学部は、動物科学科、生物資源開発学科、デザイン農学科の4学科の1年生が毎週金曜日

5月26日に厚木キャンパスの農場で実施されたのは、農学科1年生のサツマイモ(紅あずま、紅はるか)の苗植えで、学生と江口文陽学長をはじめとする学校関係者も参加した。参加した学生の3分の1が東京農大オリジナルのつなぎ「アグリデニム」を着用し意気揚々と臨んでいた。

指導は、「ペーノ」の栽培研究室の高畑健教授。学生は、大学院生と協力しながら苗を植え、冠水をして実習を終えた。秋にはサツマイモの収穫実習が行われる。

【住友富美】

サツマイモの苗植え実施 — 厚木キャンパス農業実習 —

イベント情報

- 【世田谷キャンパス】6月18日開催
学内見学ツアーのほか、研究室や「食と農」の博物館ツアーなど、多くの方々に参加いただきました。在学生のトークブースでは、受験生と在学生の微笑ましい交流が見られました。
- 【厚木キャンパス】5月28日開催
参加者は昨年を大きく超える約600名。厚木キャンパスの施設を見学するツアーなどの企画を実施し、農学部を感じてもらいました。



在学生トークブースの様子(世田谷)



施設を見学されるツアー参加者(厚木)

イベント情報はこちら▶▶▶
<https://www.nodai.ac.jp/admission/event/>

オープンキャンパス

農大生・教職員が皆様をお迎えする1年で最大のイベント「オープンキャンパス」。見るだけじゃない!聞くだけじゃない!体験イベントが満載です!



研究・研究施設の紹介(オホーツク)

収穫祭

東京農大の学園祭「収穫祭」。模擬店、文化学術展、ステージ企画と学生が趣向を凝らした企画が盛りだくさんです!農大の魅力を感じていただけます。皆様のご来学をお待ちしております。



模擬店で賑わう(世田谷)

EVENT SCHEDULE	オープンキャンパス	オンラインオープンキャンパス	収穫祭
世田谷キャンパス	8/5(土) 8/6(日) 10:00-16:00	8/21(月) 8/22(火) 10:00-16:00	11/3(金)~ 11/5(日) 10:00-15:00
厚木キャンパス			11/4(土) 11/5(日) 10:00-15:00
北海道オホーツクキャンパス	7/22(土) 7/23(日) 8/26(土) 2024.3/23(土) 10:00-16:00	8/21(月) 8/22(火) 10:00-16:00	10/8(日) 10/9(月) 10:00-15:00

農友会活動

橋本和馬さん 第71回全日本学生剣道選手権 大会への出場権を獲得

剣道部



全日本大会への出場を決めた橋本選手

第69回関東学生剣道選手権大会が5月14日に日本武道館で行われ、農友会剣道部橋本和馬さん(国際バイオビジネス学科4年)が参加人数434人中、ベスト16位という結果となり、7月2日、

第71回全日本学生剣道選手権大会への出場権を獲得した。また、同日行われる全日本学生剣道東西対抗試合の関東代表選手としても選ばれた。大会を終えた橋本さん

は「2年前にライバルである現主将の江口が全日本に出場し悔しい思いをしました。今大会は、東京農大の大將として絶対に全日本大会に出場しなければならぬという強い意志を持って挑みました。全日本大会では、表彰台に立つことを目標に4年間で培ったものを全て出し切り上位を目指します。」と今大会を振り返ると共に全日本大会への闘志を燃やした。

【本村亮輔】

中原亜星さん、所属チームが カーリング国際大会で優勝

カーリング部



中原さんは右から2人目

中原亜星さん(海洋水産学科3年)が、5月4日〜7日に北海道帯広市のカーリングプレックスおびひろで開催された国際大会『ICE GOLD CUP 2022-2023』男子カーリングチーム「Loco Drago (ロコ・ドラゴ)」の一員として参加し、自身初の国際大会での優勝を果たした。

中原さんは一般社団法人ロコ・ソラーレに4月から所属。同大会は、カナダ・アメリカ・欧州・アジアで開催されるワールドカーリングツアー(WCT)の最終戦で、決勝では帯広協会(Team OHNO)に10対3と圧勝した。

【住友富美】

「中原さんの談話」ロコ・ドラゴのメンバーとして初めての大会で優勝でき、とても嬉しいです。ポジションが変わりサードを務めることになりました。応援よろしくお願いします。

4大会連続19回日出場 第72回 全日本大学野球選手権大会出場 — 健闘も惜敗、秋への強化を誓う —

オホーツク
硬式
野球部



春季リーグ優勝を決め、三垣監督を胸上げる選手陣

初戦は6月6日神宮球場で、首都大学野球連盟代表の日本体育大学との対戦となった。初回、相手先発投手の立ち上がり

を攻め、5番彦坂慧一郎さん(自然資源経営学科4年)のライト前ヒットで1点を先制。先発投手の石澤大和さん(自然資源経営学科4年)は好投したが、4回に逆転を許した。攻撃陣は中盤までに得点圏にランナーを進め

るも、あと1本が出ずに中盤以降は相手ペースとなり、5人の投手の継投策もおよばず、1対8で初戦敗退となった。今大会からスタンドからの声出し応援が許可され、両校の応援合戦・エールの交換も白熱し、全学応援団による応援が神宮球場に響き渡った。

【嶋田達郎】

来年創部100周年を迎える男子ホッケー部は、春季リーグAプール、3勝0敗で1位となった。李監督が印象深かったと語るの森永澄紀さん(国際バイオビジネス学科4年)

【青山秀隆・吉田一男、編・寺谷広介】

北海道オホーツク硬式野球部は、令和5年度北海道学生野球連盟一部春季リーグ戦において、5季連続35回目の優勝を果たし、第72回全日本大学野球選手権大会に出場した。

春の大学野球日本一を決める、第72回全日本大学野球選手権大会が6月5日〜11日まで開催され、北海道オホーツク硬式野球部は4大会連続19回目の出場を果たした。

本一を決める歴史ある大会であり、北海道オホーツク硬式野球部は2019年第68回大会でベスト4まで勝ち上がった実績がある。

初戦は6月6日神宮球場で、首都大学野球連盟代表の日本体育大学との対戦となった。初回、相手先発投手の立ち上がり

を攻め、5番彦坂慧一郎さん(自然資源経営学科4年)のライト前ヒットで1点を先制。先発投手の石澤大和さん(自然資源経営学科4年)は好投したが、4回に逆転を許した。攻撃陣は中盤までに得点圏にランナーを進め

【嶋田達郎】

ホッケー部

男子・女子第42回全日本大学 ホッケー王座決定戦出場を決める — 春季リーグ男子準優勝、女子3位 —

2023年度関東学生ホッケー春季リーグ(以後春季リーグ)が4月2日〜7月2日まで開催された。今回の春季リーグでベスト4までが、7月14日〜18日まで大阪府茨木市で開催される第42回全日本大学ホッケー王座決定戦(以後王座決定戦)に出場できる。

男子ホッケー部も、春季リーグBプール2勝1敗で2位となり王座決定戦出場権を得た。リーグ3位決定戦で早稲田大学を下し3位となった。吉田監督は、「今大会11人の中で2名が万全の状態ではなく、非常に厳しい戦いとなった。チーム力で戦い抜いたと言えるリーグ

【青山秀隆・吉田一男、編・寺谷広介】

【住友富美】



攻める女子ホッケー部

号外

14年ぶり伊勢路 全日本大学駅伝 出場

陸上競技部
男子長距離

第55回全日本大学駅伝対校選手権大会 関東学生陸上競技連盟推薦校選考会

東京農大5位で突破



力走する前田 和摩さん(左)と並木 寧音さん(右)

順位	大学名	総合タイム
1位	城西大	3時間57分35秒40
2位	大東文化大	3時間57分50秒77
3位	東海大	3時間57分58秒89
4位	東京国際大	3時間59分02秒86
5位	東京農業大	3時間59分20秒68
6位	帝京大	3時間59分34秒06
7位	国土館大	3時間59分45秒19

第55回全日本大学駅伝対校選手権大会の関東地区選考会が6月17日に相模原ギオンスタジアム(神奈川)で行われ、陸上競技部は3時間59分20秒68で5位となり、2009年以来14年ぶり20回目となる本戦出場を決めた。

「全日本大学駅伝」は、「出雲駅伝」、「箱根駅伝」とともに学生三大駅伝と呼ばれ、名古屋・熱田神宮〜三重・伊勢神宮8区間の106.8キロで競う。今年は11月5日に開催される予定で、27チームが出場し、大学駅伝日本一を決定する。

今年の選考会では、本戦の出場権7枠をかけて20校が参加。1万円のレースを4組行い、各校2選手が出場して計8人の合計タイムで上位7校が出場権を獲得した。

東京農大は、3組目に出走した高槻芳照さん(食料環境経済学科4年)が粘りの走り、3組が終わった時点で12位にいた。エースが集う最終組で、並木寧音さん(国際農業開発学科4年)の好走、新戦力の前田和摩さん(食料環境経済学科1年)も初の1万円のレースでU20日本歴代2番目となる28分3秒51と躍動し、12位から5

組	選手名	学科	TIME
1組目	深堀 優	国際バイオビジネス学科2年	30分39秒21 (22着)
	松本 虎太郎	国際バイオビジネス学科4年	30分43秒55 (25着)
2組目	実井 智哉	国際バイオビジネス学科3年	30分21秒25 (20着)
	長谷部 慎	食料環境経済学科4年	30分29秒96 (25着)
3組目	高槻 芳照	食料環境経済学科4年	29分43秒47 (2着)
	原田 洋輔	農芸化学科2年	30分17秒51 (31着)
4組目	前田 和摩	食料環境経済学科1年	28分03秒51 (3着) U20日本歴代2番目のタイム
	並木 寧音	国際農業開発学科4年	29分02秒22 (18着)



位と大逆転した。諦めずに粘り、チーム一丸となって勝ち取った伊勢路への切符だ。

10月に行われる箱根駅伝予選会へも勢いがつく結果となり、小指徹監督は「全日本大学駅伝予選会を突破できた事はチームにとって、この上ない士気高揚が得られた。高槻、並木、前田、3人のエースを軸に学生は日々トレーニングを積み重ね、さらに自信を深めている。今こそ、練習の成果を発揮し、10年ぶり70回目の箱根本戦出場を決めたい。」と意気込みを語った。

【住友富美】